

高知放送

活動名	高知放送開局 70 周年記念事業「メディア・リテラシー授業」
実施期間	令和 5 年 7 月 14 日、11 月 8 日
実施回数	学校 2 回

【実施学校】 義務教育学校・土佐山学舎、高知市立・五台山小学校

【事業実施の成果・課題】

・「速報性」「正確性」「公平性」「公共性」という公共メディアの果たす役割を、「ニュースができるまで」という VTR 教材を使うことで、子どもたちに楽しく学んでもらえたかと思う。また授業の様子をテレビニュースとして取材したため、現場で取材記者の仕事の様子も見学してもらえた。近年は「テレビ離れ」が言われ若手の離職率の高さも問題となっているが、メディアという仕事について、子どもたちに関心を持ってもらえたのではと思う。

・高知放送としては事業実施に当たり、現場への負担を考慮する観点から上期・下期一回ずつの開催としたが、2023 年度は 10 校ほどが会社見学にも訪れており、弊社総務部との調整で、民教協制作の DVD 教材「ニュースができるまで」を使つての会社見学の実施を検討しても良いかと思った。

・授業の中身については特に細かい指示がなかったため、植村局長、井上アナにお任せする形となったが、DVD 教材のほかに子どもたちに指導するうえでのマスト事項などを示したマニュアルがあった方が良いと感じた。

【事業担当者の感想】

＜高知放送 報道制作局長 植村浩史＞

「メディア・リテラシー」の授業の対象は、土佐山学舎が小学 4 年・5 年生、五台山小学校が 5 年生でしたが、利用させていただいた VTR 素材が、なかなか面白くできていて、児童も興味をもって視聴した様子でした。

公共メディアが果たさなければならない役割の中で、「速報性」「正確性」「公平性」「公共性」の中では、「速報性」と「公平性」が印象に残ったようで、質問と感想もこの点が多かったように感じました。弊社では、タイムテーブルを用いて、自社制作番組やネットのニュース番組なども紹介し、児童の継続視聴をうながすよう PR もさせていただきました。

自身の感想としては、テーマは難しいものの、ニュース制作に関する興味は持ってもらえたのではないかと感じました。

＜高知放送 アナウンス部 井上琢巳＞

授業を行った小学校では、パソコンを使ったカリキュラムも多く、インターネットの調べモノをする際に、テーマに対する様々な角度で調べる必要があるということも伝わったのではないかと考えています。小学 4 年生・5 年生あわせて、およそ 30 人に「メディアリテラシー」について授業を行いました。

課題としては、授業が終わり、児童たちから「生」の声を聴きましたが、「言葉の意味が分からない」

という意見がありました。初めて知った「メディアリテラシー」というワードに、17 分の映像にあった「公共性」といった言葉が登場すると意味がつかめないため集中力・理解力が弱くなる印象でした。成果としては、ニュースがどのように作られているのか、テレビ局の仕事について理解できたという児童たちの感想が多く、総合的にみて、児童たちは「メディアリテラシー」授業を楽しんでいた印象です。また、メディアリテラシーを学ぶ様子を高知放送報道部がニュースとして取材に入っていたので、映像とリンクする部分があり（報道記者とカメラマンが児童を実際取材しているので）児童たちがメディアリテラシーを学ぶ姿が、きょうの夕方のニュースになる、こうやってニュースになるんだ、ということを実感できるなと感じました。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

＜高知市立義務教育学校 土佐山学舎 4 年生＞

- ・テレビで放送するには事実だけを放送しないといけないことが分かった。情報を扱うのは難しいことが分かった。両方の意見を尊重することが大事だと分かった。勝手に人を疑ったり差別することがダメなことが分かった。
- ・事件があったときに「あ」この人が犯人だとか、を見た目で判断してはいけない。嘘の情報などを周りの人に話さない。体でうその動きをしてはいけない。それがニュースに流れたら嘘の情報になるから、嘘の動きはいけない。
- ・ニュースを見ていた人たちが「危ないんだなあ」と、嘘のことと思ってしまうから。見た目で判断してしまうと、その人がしてないのにしたとっていったら、本当にしているのかがややこしくなってしまうから。
- ・勝手に決めつけない。決めつけないで話を聞く。私はこれから人を見た目で判断せず勝手に決めつけないで行動していきたいです。テレビの時だけでなく生活の中でも使いたい。
- ・ニュースは事実を伝えないといけない。早くて正確でみんな公平にすることが分かりました。ニュースはみんなの情報を伝えるものなので、ニュースは正確に伝えていることが分かりました。今度ニュースを見ることがあったらニュースができるまでを考えながらみたいです。
- ・勝手にこの人が悪いと決めつけたら、その人がすごく悲しんでしまう。しっかりこの情報は伝えていいのか考えて、伝える。自分が嫌だなと思ったらそのことは伝えない。この情報が本当のことかしっかり確認してから伝える。
- ・ニュースでは、「そうだろう」や「そうだ」と思うなどの事実ではないことは流してはいけないということが分かった。これは本当なのか調べてから事実と分かったうえで放送するということが分かった。勝手に人のことを見た目で決めつけてはいけないということが分かった。
- ・勝手に決めつけたり事実がないのに伝えるのはダメなことが分かった。言っていないのかちゃんと聞いてから放送しないといけない。本当のことを放送しないと人が死んでしまうからいけない。
- ・僕はこのメディアリテラシーの勉強をして普段テレビのニュースを見ているけど、日本全国に放送するのにこんなに手間がかかるとは思っていませんでした。テレビ放送の中継とかでは事件の犯人を捜すのに怪しい人を犯人と決めつけてはいけないことを知ったので、このメディアリテラシーの勉強をしてよかったなと思いました。
- ・オーバーなことは絶対やってはいけない。決めつけない。事実ではないことは絶対やってはダメ。文字の読み方を決めつける。テレビでは速報性が大事。ニュースの取材のときは安全第一が分かった。

- ・人を見ただ目で決めつけて嘘のことを人に伝えてはいけない。こういうことを公平性という。速報性とは早く出来事を伝えるという意味だと分かった。公共性はお互いの気持ちを分かりあうことだと知った。
- ・ニュースは事実のことを世界に発信しているということ。情報を扱うのは難しいんだなと思った。調べるときに一人の意見を聞いて、その人の意見だけに乗るのはいけない。自分で調べるときの本当に合っているかを考えたいと思った。
- ・ニュースができるまでに色んなことがあると分かった。
- ・人のことを勝手に決めつけてはだめだと分かった。
- ・ニュースには色々な大切なことがあると分かった。
- ・用意してくれた「ニュースができるまで」が面白かった。
- ・速報性、自分が知ったことを早く伝える。正確性、ちゃんとした情報か確かめる。公平性、公共性、人のことを見ただ目で決めつけない。というルールがテレビ局にあるということが分かった。これを知ってこれからも人を見ただ目で決めつけないようにしようと思った。テレビ局にもルールがあつて。それを守ってテレビでニュースが見られるんだなと思った。インターネットで知ったことをみんなに話すのは良くない。理由は嘘の情報が流れてしまうからということが分かった。テレビ局のルールは私たちも守った方が良くないと思った。テレビ局のルールは私たちの生活のルールと似ている。正確性は何でもすぐに話してはいけないと似ている。だから私はこれからも気を付けて〇〇だと決めつけたり、嘘の情報かも知れないものは言わない。

<高知市立義務教育学校 土佐山学舎 5 年生>

- ・今日のメディアリテラシーでテレビの編集は記者が指示をしていることや、生放送でニュースキャスターが撮られているとき、どんなことを言えばいいか、前で文字を出して指示をしている人がいるということを知った。あと「ニュースの仕事にも平等ってあるんだなあ」と感じました。これからはテレビを見るとき、ニュースのスタジオの奥を考えてみたいです。・VTR やテレビ番組を作るときは事実と平等ということが大切だと思いました。できるだけ正確な情報を早く入手できるようにテレビでニュースを見るときなど、そして多くの情報を知り生活にも活かしていきたいです。
- ・熱血太郎の VTR を見て、ニュースはただ現場に行ったりして聞き込みなどをするだけだと思っていたけれど、本当にその事件が起きたかや勝手に決めつけないなどそんな細かいところまでニュースを作る人はやっているんだなと感じました。よく大雨の時に「〇〇川が氾濫しています」などの速報を見て、そこで川の状況を説明する人はいるけど、その人も自分が危険だったら高台から撮るなどするということが分かりました。これからニュースを見るときはこの事件が起きて、警察や消防がちゃんと「こんな事件がありました」と認めたから流しているんだと分かりました。私は例えば、VTR のように鉄道がなくなるというのにニュースの人が両方の意見を主張しているか詳しく聞きたい。
- ・今日感じたことは僕はあまり編集や情報を集めるということをしませんが、VTR で聴いた情報性や公平性、速報性などの考えについて、友達同士で口喧嘩になったときには、公平性や情報性についてなどを考えてみたりしてから最初から考え直して仲直りしてみたら良いなと思います。僕はネットをたくさん使っているのだから、これからは嘘か本当か考えてから受け取ったニュースについて考えてみたりしようと思います。
- ・私はいつもニュースなどを見ていて、今日情報リテラシーについてニュースの裏側を見て、テレビを見ているときにこんなことがあったのかな？ と想像したりして見て、テレビを楽しく見れたらいいなと思いました。私はいつもテレビを見るときは、ネタだけを気にしてどうやって撮影しているのか

なとか、気にしていなかったのこれからニュースをたくさん見ると思うから、どういう風に編集してなど工夫しているところを気にして見たいです。これからの自分はおばあちゃんなどとテレビの裏側がどんなニュースかなどを一緒によく見てみたいです。今日の情報リテラシーで話してくれたことを活かして、これからもニュースを楽しく面白く見れたらいいなと思いました。

- ・僕は情報リテラシーというものを知らなかったの知れて良かったし、情報性とか公平性というものすら知らなかったけど、記者がどのように動くかは少し知っていたから、大体は分かった。熱血太郎との大便と代弁を間違えたり、初聞きというボケが面白かった。あと、ツッコミも面白かった。これからは情報を先生や友達に伝えるときは本真か確かめて正確に伝えようと思った。

- ・知ったことは携帯のラインやゲームで顔を知らない人と連絡していると初めは優しいが脅しなどになっていくことが分かりました。自分自身について僕はあまり人と関わるゲームをやってないけど、このことを聞いて、僕はこれから人と関わるゲームでも友達じゃないとそのゲームは関われないように設定します。

- ・今日初めて放送局のやってはいけないことを知ったし、もしかしたら放送局に入るかもしれないからずっと覚えていようと思います。そしてこれからはテレビの情報を丸のみにしないで、疑ったり家族にどう思ってるか聞こうと思います。

- ・今日考えたこと：ニュースは正しいことを伝える。自分の思いは入れてはいけない。ニュースを作るのは難しい。私たちはどのように、情報を受け取るか⇒考えながら受け取る。

- ・私は最近ニュースなどを見てませんでした。だけど授業を聞いてニュースなどの裏でしていることがこんなに大変で、ニュースを見たらこんなに世界が変わることを知り、帰ったら早速ニュースを見ようと思いました。ニュースなどからの情報をぼーっと見るんじゃなくて、どうしてこのような事件が起こったのだろうなど、深く考えていたい。

- ・ニュースで間違っている情報を流したらダメとかは知っていたけど、演出もだめで、ニュースの仕事は難しいんだなと思いました。もしニュースの仕事をするなら 4 つの点に気を付けたりしたいです。

- ・メディアリテラシーの学習をして。僕はニュースが速報性、正確性、公平性、公共性を意識しながら作られていたことを初めて知りました。後、ニュースはカメラマン、アナウンサー以外にも原稿を作る人や画面作りのプロなどのたくさんの人の協力ですべてできているんだなと知りました。テレビ局の人たちが働いているところを見てみたと思いました。これからは「この人が言ったことはすべて正しいです」と考えずに「本真かな？」と思うようになりたいです。

- ・ニュースを何気なく見ていたけど、ニュースを作るのも大変だと感じた。これまでは他人事のように思ってみていたけどこれからは他人事と思わず見るようにする。

<五台山小学校 5 年生 児童>

- ・「熱血太郎」の映像がおもしろかったし、テレビ業界の中ではこんな失敗もあるんだなと思いました。この映像を見て、どこに何があり、そこで何をするのかが知りたくなりました。・テレビ業界では 4 つのポイントが大切だと分かりました。しかし、新人さんは意外と守れていないことを知り、びっくりしました。しかし、とてもカッコよく、あこがれの存在です。

- ・RKC のみなさんが視聴者のみなさんによりうまく伝えられるか、4 つの工夫をもとにして放送していることがよくわかりました。学校の健康委員会で生かしてみます。ありがとうございました。

- ・動画で見た 4 つのポイントが完全に頭に入りました。私が一番大事だと思ったことは公平性です。どちらの意見も聞くということは、私たちはふだんでも使えます。これはどこでも大切なんだということがわかりました。今日はありがとうございました。

＜五台山小学校 5 年生担任 池原恵子教諭＞

・今日はニュースの仕事をしている方から直接話を聞くことができました。また、おもしろく、分かりやすく映像にまとめてくださっていたので、子どもたちは自分の目で見て知ることができ、分かりやすく学習できたと思います。今、社会科の授業で情報や報道番組を作る人たちについて学習しているところです。今日の学習を思い出しながら、今後の学習に活用させていただきたいです。お忙しい中、子どもたちのためにメディアリテラシーについての学習をしていただきありがとうございました